

4 世田谷区下代田東町会

(世田谷区)

構成世帯数：1,100 世帯（平成 31 年 3 月末）

若い世代の目線でイベントを考え情報を発信

子供たちが楽しみにする催しに力を入れていく

●ポイント

- ・高齢者層と新しく移り住んできた若いファミリー層との交流が課題。
- ・新規加入者を増やすには祭りや盆踊りなどイベントの開催が欠かせない。令和 2 年度は中止となったが、3 年度はコロナ禍が続いても工夫して実施したい。
- ・子供たちが楽しみにしてくれる催しに力を入れていくことで、ファミリー層にも町会をアピールできる。

町会青年部が地域の行事を牽引、ホームページや Facebook で新規会員を募集！

世田谷区下代田東町会は、立地条件としては渋谷までバスで 15 分程度。下北沢、三軒茶屋にも出やすく、交通の便の良い住宅地となっている。そのため、近年はマンションが増えている。

町会青年部の A さん（34 歳）によれば、高齢世帯が住まいを売却して引っ越すこともあれば、新たに越して来る人も多く、人の入り代わりが進んでいるという。町会の課題としては、昔から地元で暮らしている高齢世帯と新しく移り住んできた若い家族層とのコミュニケーションを挙げる。

世田谷区下代田東町会の運営は、青年部と睦會で行い、青年部は祭りを中心に様々な年間行事の進行役を務めていて、町会で重要な役割を担っている。現在、青年部の構成は地元住民を中心に、新たに移り住んできた人など 20 代から 70 代まで幅広い世代のメンバーが参加。地域外から参加している人もいる。

青年部ではホームページと Facebook を開設。「地域に住んでいる会社員など多種多様なメンバーで構成されております。毎月の部会に欠かさず参加する人もいれば、年に数回お祭り当日のみの参加など、ご自身のライフスタイルに合わせてフレキシブルに活動できます」と説明。「花見や忘年会など、レクリエーションもたくさんあり、新しく入ったメンバーもすぐに仲良くなる事ができます」と追記し、「お子様のいるお父さんお母さん！ 移り住んで来てまだ近所に馴染みのない方！ 地域交流で情報交換も友人作りもできちゃいます！」と呼び掛け、「ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください」と誘っている。

「例大祭」では子供の神輿や山車にファミリー層が多数参加

青年部が主に実施している行事は、盆踊りや例大祭、商工会のお花見会などで、主に動いてもらう担い手の確保はやはり難しいという。

新規の加入してもらおうと、「地域の子供のつながりなどから、あまり煙たがられない程度に声を掛け、ている」と A さん。「移り住んできた若いファミリー層に、お祭りや行事等で町会をアピールしている」とも説明する。

例大祭は、環七沿いに鎮座する代田八幡神社の秋祭りで、毎年 9 月の第三土曜日に宵宮、翌日曜日に本祭が行われる。世田谷区下代田東町会青年部のメンバーが神輿の担ぎ手として参加している。宵宮の日は昼間に子供神輿や太鼓車が町内を回り、神社にもやってくる。

子供の神輿や山車も運行。山車は大勢の子供が参加して引くが、父兄も集まるので若いファミリー層に地域の伝統や町会の活動について知ってもらうよい機会にもなっている。「子供が 100 人くらい参加して、大人が 150 人くらい加わります」と A さん。

ただし、令和 2 年（2020 年）は新型コロナウイルス感染症の収束に見通しが立たないことから、やはり中止となった。

「子供祭り・納涼祭り」の参加で町会活動への理解が深まる

世田谷区下代田東町会では、令和元年度（2019 年度）に東京都「地域の底力発展事業助成」を活用して 7 月 13、14 日の両日、下代田児童遊園を会場に例年行われている「子供祭り・納涼祭り」を実施。祭りを通じて地域活性化を図ると同時に、災害時に住民の連携を強化できるように、防災車を利用した消火訓練も行った。

さらに、地区内にある留学生会館にいる外国から来た学生に声を掛け、和太鼓の試し打ちをしてもらい、日本文化の紹介にも努めた。

こうした祭りなどに参加し、これまで町会に未加入だった世帯が町会活動への理解を深め、新規に 5 世帯が加入してくれた。

コロナ禍が続いても実施できるようにイベントを工夫したい

今後について、A さんはやはりコロナ禍の影響を課題として挙げる。「令和 2 年度（2020 年度）は新型コロナウイルスの感染防止を図るために祭りなどが中止となり、活動ができていない。祭りなどができないと、新規加入の募集が難しくなるだけでなく、これまで参加してきた人も地域活動から離れていくのではないかと心配する。

そこで、「コロナ禍では飲食系のイベントが難しいし、お神輿なども困難になる。飲食は最小限として、盆踊りやお神輿を風習としての元々の習わしに近い形で実施していきたい」と考えている。

例えば、「盆踊りでは踊りが始まる前の早い時間に、子供たちの吹奏楽の演奏、日舞の披露などがあるが、そうした催しを観客席の間隔を広くして体育館で実施してはどうか」と提案する。その様子を、インターネットで同時配信することも考えている。

「ご近所付き合い」から「子供のつながり」での付き合いに移っていく

今後を考えると、高齢者は若い世代と一緒に活動することが難しくなり、しだいに町会活動から離れ

ていく。「どの町会でもなかなか難しい課題になっていると思う」とAさん。

「地域の人たちを楽しんでもらえる催しとするのは当然ですが、そうした催しを楽しみに待っている子供たちのために何かしたいという思いは強いように思います。従来のようなご近所付き合いは少なくなり、それに代わって子供のつながりで大人もつながっていく。子供が楽しみにすることに力を入れることで、ファミリー層へのアピールになると思う」とAさんは30代の若手の立場から語る。

「町会としてリサイクル活動などに力を入れていくことも大切だが、わくわくする楽しいことを作らないと町会活動はアピールできない」と考えている。



「子供祭り・納涼祭り」の会場となった「下代田児童遊園」



世田谷区下代田東町会地区の街並。戸建て住宅が多く閑静な環境となっている